

病児保育施設から自動車による
15, 30および60分到達圏内に居住する
乳幼児の比率について

広島国際大学 医療経営学部

江原 朗

症例報告以外の発表

日本小児保健協会 COI 開示

発表者名(筆頭演者): 江原 朗

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業等はありません。

背景

- 乳幼児は感染症にかかることも多く、1か月に2回前後医療機関を受診している。
- 軽症であっても発熱等の症状を来せば、幼稚園や保育園は登園を認めていない。
- しかし、各世帯が利用できる病児保育サービスの有無に関しては全国的な解析が乏しい。

目的

- 病児保育施設に自動車によって15, 30および60分以内に到達できる圏域内に居住する乳幼児の比率を地方間で比較する。

方法(1): 病児対応型保育施設の同定

- **施設のリスト**: 平成28年3月31日現在値を厚生労働省から入手.
- **施設所在地**: 所在市町村および病児保育施設のホームページから引用.
- **緯度・経度**: 所在地から地理情報システム(GIS)により変換.

方法(2):

乳幼児の居住地と到達圏の同定

- **乳幼児の居住地**: 全国を約20万に区分した街区の緯度・経度を利用
- **各街区の乳幼児人口(0~4歳)**:
平成22年国勢調査から引用
- **15, 30および60分到達圏**: カーナビゲーション(道路網の解析システム)を利用.

速度設定(km/h)

地域 (道路密度)	道路種別	幅員 (m)				
		≥13	5.5-13	3-5.5	<3	不明
都市 (≥15,000 m/km ²)	高速					
	都市間	80	80	50	10	2
	都市内	60	60	50	10	2
	主要道					
	国道	30	20	17	7	2
	県道	30	17	17	7	2
	その他	30	12	8	4	2
地方 I (5,000-15,000 m/km ²)	高速					
	都市間	80	80	60	15	10
	都市内	60	60	60	15	10
	主要道					
	国道	50	40	25	10	10
	県道	50	35	25	10	10
	その他	50	20	15	10	10
地方 II (<5,000 m/km ²)	高速					
	都市間	80	80	60	15	10
	都市内	60	60	60	15	10
	主要道					
	国道	55	50	30	10	10
	県道	55	45	30	10	10
	その他	55	30	15	10	10

結果

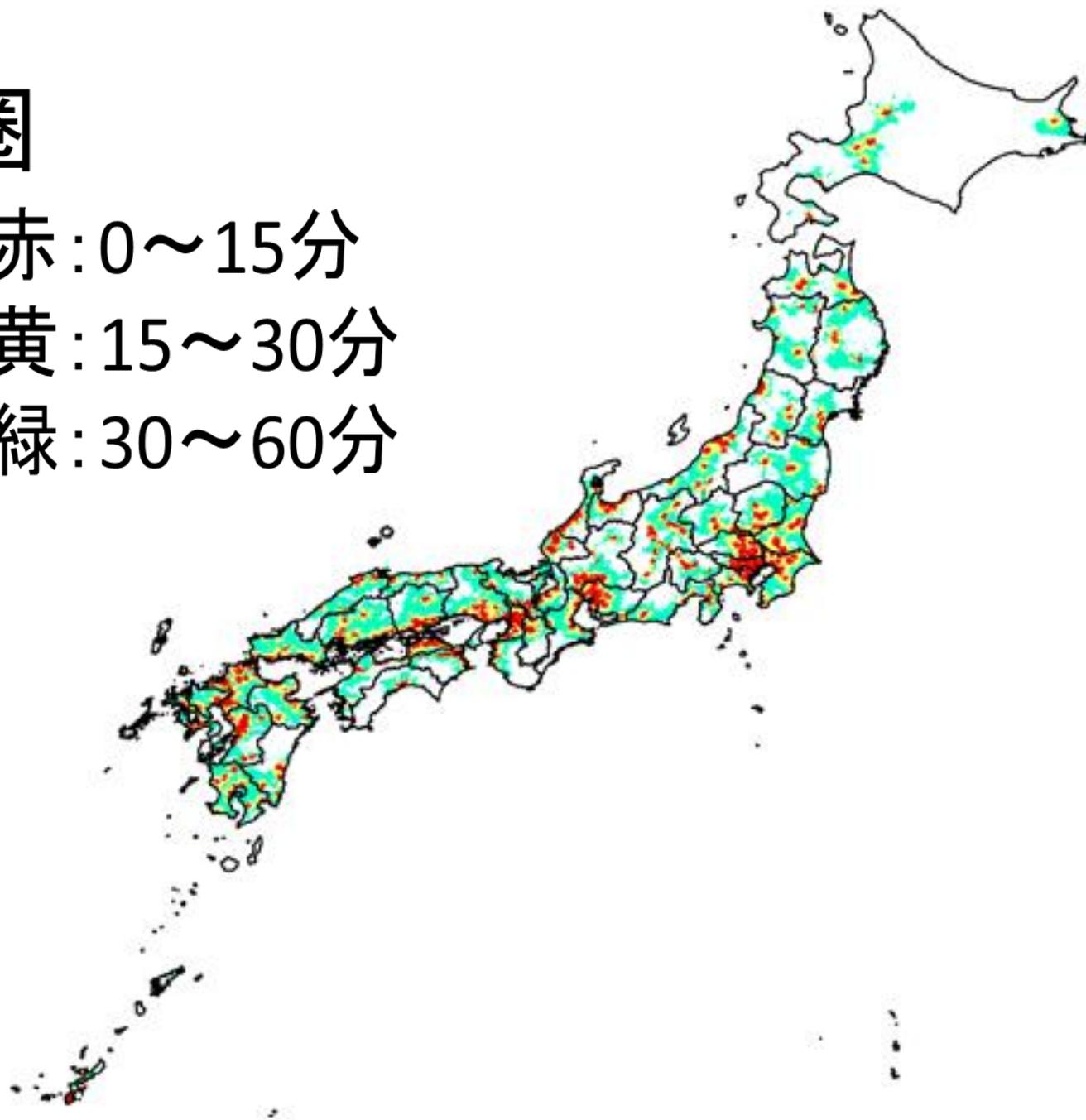
- 全国的に見ると、15分圏内に59.7%、30分圏内に84.5%、60分圏内に94.0%の乳幼児が居住していた。
- 地方間の格差が激しく、15分圏内では関東66.9%、近畿72.0%であったのに対し、北海道8.5%、東北32.8%であった。
- 30分圏内では関東92.5%、近畿92.1%であったのに対し、**北海道34.4%**、**東北60.3%**であった。

病児対応型保育施設の15, 30, 60分 到達圏内に居住する0~4歳児の割合

	< 15 分	< 30 分	< 60 分
1 北海道	8.5%	34.4%	66.6%
2 東北	32.8%	60.3%	84.3%
3 関東	66.9%	92.5%	99.0%
4 中部	51.7%	83.5%	95.5%
5 近畿	72.0%	92.1%	97.3%
6 中国	68.1%	87.4%	95.0%
7 四国	64.3%	78.7%	85.9%
8 九州・沖縄	62.1%	83.1%	89.3%
総計	59.7%	84.5%	94.0%

到達圏

赤: 0~15分
黄: 15~30分
緑: 30~60分



結論

- 感染症にかかりやすい乳幼児に対しては、健常時の保育だけではなく、**感染症等の罹患時に保育を実施するサービスが必須である。**
- 国税の投入により病児保育サービスを充実させるのであれば、全国各地における**アクセスの格差を解消すべきである。**